

伊勢志摩サミット国際メディアセンターアネックス

ISE-SHIMA Summit International Media Center Annex



敷地北西に位置する国際メディアセンター（三重県桑名アンアリーナ）のアネックスとして臨時駐車場に建設された。2015年11月に建設が始まり、約5カ月半の工期を経て完成。サミット終了後、2週間の一般公開を終え、10月末に解体が完了した。

3R（リデュース・リユース・リサイクル）率99%以上を実現したサミットのための仮設建築

これは2016年5月26・27日に開催された伊勢志摩サミットの報道関係者向け施設です。隣接する三重県桑名アンアリーナを国際メディアセンター本館とし、不足する機能を補うため、仮設建物（アネックス）として建設されました。

また、メディア関係者の事務スペースやダイニング等のサポート機能に加え、日本の文化・伝統・最新技術から食文化の体験まで、日本の魅力を世界に発信する広報スペースが設けられました。

施設はサミットの取材に訪れる各国プレスや来賓を迎えるため「和」を感じられる空間が求められました。空間形成にあたっては、木材を中心としたメリハリのある内装を計画しました。

本施設は今回のサミット期間中に不可欠な建物ですが、仮設建築物であるため地球資源の有効活用を目的に、3Rを徹底した結果、重量比99%以上のリユース・リサイクル率を達成することができました。

具体的な手法として、3Rに配慮した素材の選定、分解が容易なディテールを採用しました。例えば、柱・梁・床等の主要部材は、通常、山留工事で用いられる鉄骨資材や覆工板等の仮設構造材で構成し、断面をリユースに配慮した規格サイズに統一することで、短期間での施工効率の向上を図りました。

また、短期利用であることを理由に錆止めなどの一般的な利用期間を想定した仕様を緩和しています。

屋外階段やバルコニー下地材・内部階段手摺等は、単管パイプやプレファブ用リユース資材を用いることで発生材を抑制し、屋根の折板やサッシ・フリーアクセスフロア・タイルカーペット・外構床材等は、リユースを前提としたディテールとしています。壁の内装に用いるボード類は、工場生産の壁紙付きまたは無塗装品とし、他の資材と混合しないことで効率的なリサイクルを行っています。



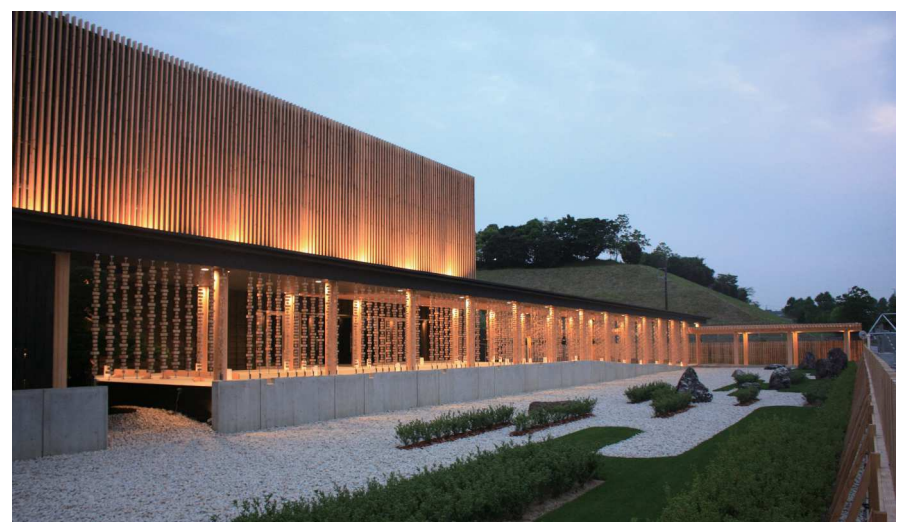
中庭を介してエントランス方向を見る。暮盤目状に区画された橋に植えられた植栽や樹木、底石はすべてリユース。木蔵が陰影を創る。

設備類は計画段階でできる限りリース・レンタル品を採用し、リユースの可能性について検討しました。具体的には、マルチパッケージ型空調機・厨房機器・衛生器具はリユース、照明器具・キュービクル・電灯分電盤はリース・レンタル品としています。また、仕上げの簡素化やダンボールダクトの採用等により、建設・解体に関わる手間を削減し、短期間での施工とリサイクル率の向上を図りました。

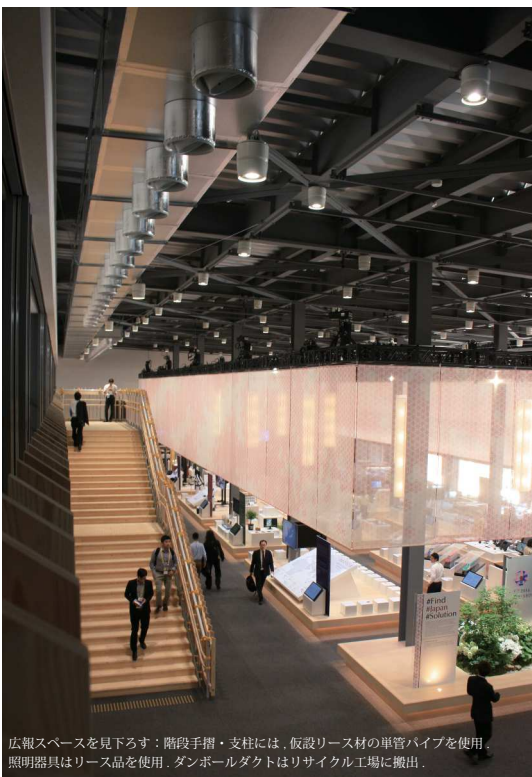
これらのノウハウは、単に仮設建築物のリユース・リサイクル率を高めるだけでなく、新築建物やインテリアデザイン等においても実現の可能性を秘めており、多岐にわたる分野の省資源化と持続可能な社会実現に繋がると考えています。



柱の列柱と仕立て樹木により「和」を感じさせる空間を構成。床には300mm角の覆工プレートを使用し、サミット終了後現場でリユース。



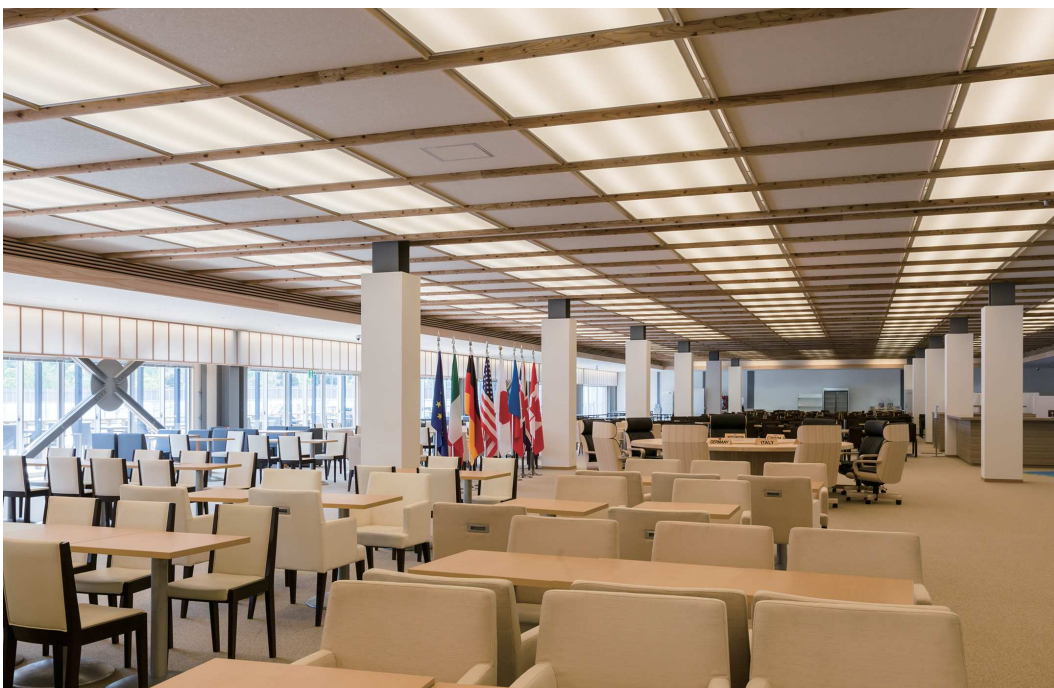
前庭から渡り廊下を見る。木蔵が渡り廊下と前庭の境界を柔らかく仕切る。足元の照明と列柱間に配した照明が来訪者をエントランスに導く。外壁のルーバーに用いたスギ材や木製製の一部、前庭の伊勢ごろた石は他の公共施設でリユース。300φの松丸柱も製材され建材としてリユースされた。



広報スペースを見下ろす：階段手摺・支柱には、仮設リユース材の単管パイプを使用。照明器具はリース品を使用。ダンボールダクトはリサイクル工場に搬出。



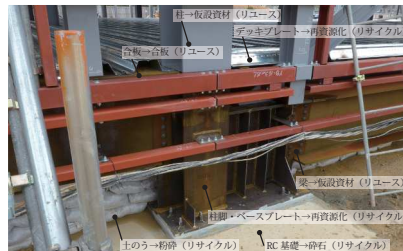
天井高さ8,700mmの広報用スペース。日本の文化・伝統・最新技術から食文化の体験まで、日本の魅力を世界に発信した。



ダイニングスペース：各国報道関係者に日本の食文化を発信するとともに、日本食を提供するスペース。木質内装材、工場生産の壁紙付き石膏ボード、床下地のデッキプレートはリサイクルを行っている。

回収率を促進するディテールの追求

一度使用した材料をリユース・リユース材として活用するためには再利用できる形状を保つことが必要となります。そのためリユース・リユース材の取り合いに穴あけや曲げ加工が可能なりサイクル材を用いることでリユース・リユース率を向上させるディテールを追求しました。今回使われている設計・施工の手法はどれも一般的な工法と大きく異なるものではありません。しかし、資源の有効活用という観点から突き詰め、実現可能な手法を積み上げることで建物の価値を大きく向上させることができる可能性を示していると考えます。



柱脚・ベースプレートはリサイクル。仮設鋼材の規格に合わせた柱・梁はリユース。外周部の止水は土壌で対応。

撤去を想定した機器設備配置

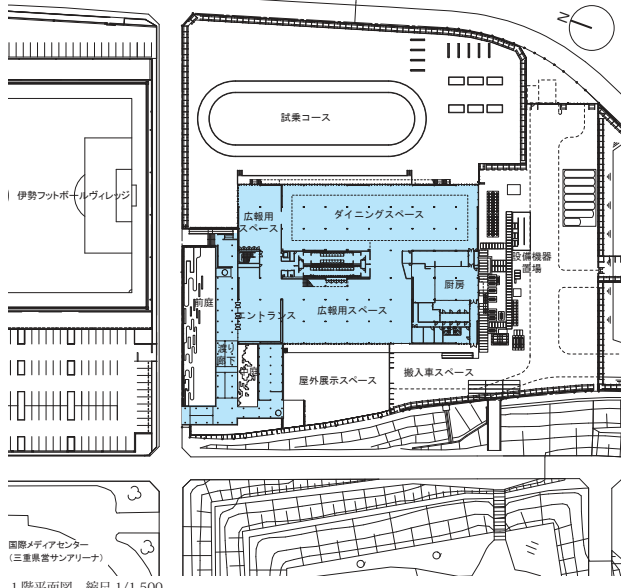
マルチパッケージ型空調機（写真下）やLPガスバルクタンク（写真右）などの機器類は、仮設の基礎に設置することにより、サミット終了後に撤去のし易さに配慮した配置計画とした。



マルチパッケージ型空調機



LPガスバルクタンク
便器類は使用後に他の建物でリユース。



1階平面図 縮尺 1/1,500

設備の名称	設備仕様	リユース	仮設時の内装
照明器具	照明器具	リユース	仮設時の内装
空調機	マルチパッケージ型空調機	リユース	仮設時の内装
厨房機器	厨房機器	リユース	仮設時の内装
衛生器具	便器類	リユース	仮設時の内装
その他	その他	リユース	仮設時の内装

2階平面図 縮尺 1/1,500
施設の簡素化、短期間施工、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の促進を実現するための取り組み内容一覧表

地域に残すサミットの記憶

解体後の多くの建築資材はさまざまな場所に選ばれ、リユース材として活かされていますが、建築以外のものでも再利用されているものもあります。例えば、建物周囲を覆うルーバーに使用されていた木材は、再加工されベンチとして市内に設置され利用されています。また、渡り廊下で使用されていた木製の蔵は分解されサミットロゴの刻印を押して一般公開に訪れた地元小中学生らに配布されました。これらの再利用された材料は、素材として還元されただけでなく伊勢志摩サミット開催地としての記憶を地域に残しています。



再加工されたベンチ。
ロゴの刻印を押された木製蔵。



渡り廊下で使用されていた木製の蔵は分解され、アフターサミットで見学に訪れた地元小中学生らにサミットロゴの刻印を押して配られた。